2019年介護技術コンテスト参加の皆さまへ

コンテストに参加して頂いた選手の皆さまお疲れ様でした。各部門ごとに審査員からの講評を掲載しましたので、参考にしてください。また、次年度チャレンジしよう！と思っているあなたへヒントになれば幸いです。

【食事部門】

当日は緊張し、いつもの力を発揮するのは大変だったと思いますが、課題の吉田玲子さんのために10分間という長いようで短い時間に一生懸命支援して下さったことに感謝申し上げます。吉田令子さんは架空の人物でしたが、課題を作成した私達にとっては家族のような存在でしたので、家族の気持ちに寄り添って下さった8名の競技者の温かい心に触れることができ安堵の気持ちでおります。

最優秀賞を取られた、特別養護老人ホーム白扇閣の加藤明奈さんは、特に玲子さんの生活歴・体調・家族のことをしっかりと捉え支援に結びつけていて、さり気ない気遣いが本当に素晴らしく感動させて頂きました。また、加藤さんの後ろには、施設の職員の皆さまの温かい心と見守りがありチームワークの素晴らしさも感じました。皆さん感動を有り難うございました。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　食事部門審査員　吉田美夕紀

【入浴部門】

入浴部門は認知症がある方への支援を課題としました。認知症支援のポイントは傾聴、受容、共感です。ナヲさんを理解し、ナヲさんの思いにどの様に寄り添うのか、浴室という場の環境にどのような配慮を行うのかを観させていただきました。

支援の基本は説明同意、安全への配慮、そしてプライバシーの保護、コミュニケーション技術、自立支援です。観客がいる中での競技はとても緊張されたと思いますが、どの競技者も視線を合わせて、明るく言葉かけを行っていたのが印象的でした。普段から利用者の方に優しいまなざしで接している様子が伺えました。また、滑りやすい浴室に対する安全への配慮、膝の痛みに対する歩行支援と情報を把握して、アセスメントされている事も伝わってきました。

その中で優秀賞の君塚さんは浴室に入る際のあいさつ、さりげない安全への配慮と本人の保有能力の活用、裸のナヲさんに対して直接肌に触れるのではなく、リスクに対して直ぐに対応が出来る距離感と支える手の位置が過剰介護にならないように、肌に触れない位置で保たれていました。また、ナヲさんが自然と受け答えが出来る言葉かけが、浴室から出ようという気持ちにさせていました。そして、脱衣室での対応は高評価となり、バッグを気にするナヲさんの行動を受容し、衣類を気にして脱いだ服に何度も手を伸ばすナヲさんに「この服も素敵ですね」と言葉かけを行い、着るべき服を何とか着てもらおうとするのではなく、目の前でナヲさんが行っている事を受け入れている様子が自然に行っていることが伝わってきました。

　普段の業務は、時間との戦いになりがちです。しかし、私たちの本来のケアはご本人の同意を得てから提供されるものです。人が人に触れるというのはどういうことなのか、入浴中という場面でどの様な配慮が必要なのか、普段忘れがちな大切な事をコンテストで、取り入れて頂ければという思いも込めて課題を作成しています。裸でいるナヲさんの浴室にタオルを置きに入室するにも言葉かけは必要になります。些細な行為ですが重要な行為になります。

競技は着衣が出来れば良しではなく、一つひとつ丁寧に私たちの行為が行えていれば、着衣まで行えなくても得点が取れる方法で審査は行いました。このような審査は今後も行われていく可能性があるので、次年度に向けて参考にして頂ければと思います。

最後になりますが、競技者の皆様からも多くの気づきや感動することもありました。そのような場面に立ち会えたことに感謝いたします。ありがとうございました。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　排泄部門審査員　増田知佐子

【排泄部門】

　今年度、排泄部門はベッド上での尿器を用いた排泄介助の問題でした。ポイントとしては、清水次郎さん（仮名）の人物像をしっかり捉えられているか、自立支援、安全への配慮、プライバシーへの配慮、適切な尿器の使用等が挙げられます。そして、出題者側のねらいとしては、排泄介助における支援過程での移乗介助の時のスライディングボードの使用や、尿器介助後のクッションを用いた安楽な姿勢、徐圧グローブを用いての徐圧など福祉用具を活用した技術を重点的に評価したいという思いがありました。

　優秀賞の平井さんは、一つひとつの介助に、優しい眼差しでの言葉かけがあり、介助の基本である説明と同意、安全配慮がしっかりされていました。またベッド操作の頭部を上げる際には清水次郎さん（仮名）の肩に手を添えるなど細かな配慮がされ、何より介助が自然体であり高評価でした。平井さんの普段からのお仕事の様子が目に浮かんできました。

　出場された７名の競技者の方々の介護に対する熱い思いと、真剣に技術を披露されている姿を審査する側として感じることができ感動しました。そして課題に対して事業所ごとの工夫もあり競技時間10分という限られた時間の中で、どう組み立てるかを考え練習されてきたのではないでしょうか。

最後に出場された競技者の皆さん本当にお疲れ様でした。そして、各部門で優秀賞に選ばれた方々おめでとうございます。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　排泄部門審査員　　小田明弘